慶長（平和酒造）

平和酒造は、大阪府南部の河内出身の米商人、河内屋与兵衛（生没年不詳）によって設立され、大阪中央の京橋で成功をおさめた。1744年までに、米問屋は伏見に移り、幕府の許可を得て酒の製造と小売を始めた。伏見奉行所は、日本酒の製造を許可されている会社の数を厳しく管理していたが、明治時代（1868～1912）の初頭、平和酒造は最も多くの量を製造する、伏見で最も成功した酒造会社の1つになった。

日本が1800年代後半に近代化を始めたとき、河内屋は農家から家賃として収集した米を使って、慶長と呼ばれる日本酒を生産していた。平和酒造合資会社は、戦後の1948年に、農業技術が経済発展とともに著しい変化を遂げたときに設立された。しばらくの間、平和酒造は他社への桶売りを専業としていたが、1989年には慶長ブランドを再開し、顧客に直接販売するようになった。トレードマークの純米大吟醸酒、慶長伏見の酒と慶長小判は、伏見の日本酒にしては珍しく辛口の特徴でよく知られている。